

環境保健学特論Ⅱ		選択	秋学期	1単位
担当者 〔研究分野〕	工藤 由起子〔食品微生物学、食品衛生学、感染症学、分子生物学〕 築地 信〔免疫学、微生物学、生化学、分子生物学、細胞生物学〕 奥 輝明〔微生物学、免疫学、生化学、分子生物学、細胞生物学〕			
到達目標・ 目的	① 食品を介して健康危害を及ぼす微生物およびその毒素等について理解する。 ② 発がんのメカニズム、腫瘍ウイルスやがん遺伝子のはたらき、がん細胞の悪性形質、遺伝学について理解する。 ③ 免疫学を総括的に理解する。代表的な病態と免疫システムの関わりを理解する。 ④ 上記分野および関連分野の最近のトピックスの紹介、討論を演習形式で行う。			
受講心得・ 準備学習等	微生物学、免疫学、生化学および分子生物学の基礎知識の修得が望ましい。 同僚のプレゼンテーションの理解に努め、積極的に質疑に参加すること。			
事後学習・ 復習等	関連事項についての自主的な文献調査により理解を深め、また自身の研究との関連性などについて考察することが望ましい。			

授業の方法と各回の内容

授業の方法		講義、アクティブラーニング、プレゼンテーション、質疑応答	
回	項目	内容	担当者
1	がん生物学	発がん遺伝子、がん細胞の浸潤・転移の分子機序	築地
2	免疫学の総括的な理解	最新のトピックスも含めた免疫学の総括的な解説	築地
3	免疫と病態	がん、アレルギー疾患、感染症における免疫、自己免疫と免疫不全	築地
4	食品の微生物（1）	安全な食品のための微生物制御	工藤
5	食品の微生物（2）	感染型食中毒の特徴	工藤
6	食品の微生物（3）	毒素型食中毒の特徴	工藤
7	微生物学（1）	微生物の分類と構造	奥
8	微生物学（2）	抗微生物薬の効果と薬剤耐性機構	奥
9	論文講読発表（1）	少人数のグループごとに講義に関連する論文を選択し、プレゼンテーション、質疑応答および討論を行う。	工藤・築地 ・奥
10	論文講読発表（2）	少人数のグループごとに講義に関連する論文を選択し、プレゼンテーション、質疑応答および討論を行う。	工藤・築地 ・奥

成績評価 の方法	アクティブラーニングへの参加態度、論文講読（演習）でのプレゼンテーションおよび質疑応答を総合して評価する。
成績評価 の基準	アクティブラーニングへの参加態度（40%）、論文講読（演習）でのプレゼンテーション（40%）および質疑応答（20%）の合計点。
教科書	プリントを使用する予定。
参考書など	
その他	